

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：二級河川滝川における多自然川づくりの取組		
水系／河川名：平久里水系／滝川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：28.2km <sup>2</sup>	整備計画流量：170m <sup>3</sup> /s(W=1/3)	セグメント：2
事業：河川改修	事業開始年度	昭和50年度
目標設定：なし	段階	P(計画時)
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、瀬・淵の保全・再生・創出、水際域の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)、護岸整備、魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮		

### 背景・課題、目標設定

滝川は、全体的に掘り込み河道となっており、その川幅は10～15m程度と狭く、急な法勾配を有している河岸が多い河川であった。大雨の時には周囲の水田や住宅が浸水する等の被害が発生しており、昭和50年から河川改修に着手をしている。

河川改修着手初期の最下流域は、法勾配2割の複断面で改修してきたが、平成7年度に多自然川づくりの基本構想を検討し、その後はこの基本構想に則って改修を進めている。

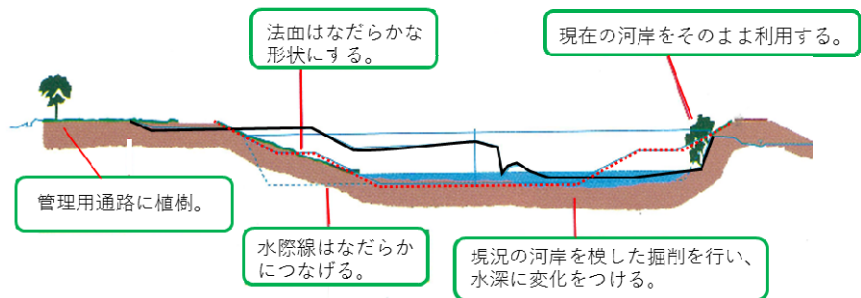
滝川の特徴を損なわないよう、河道特性や自然の多様性に配慮しており、例えば従来より生息しているメダケは、魚類や鳥類等の営巣の場となっているため可能な限り保全及び再生するよう改修を行ってきた。

しかし、一方で、メダケの繁殖力の強さ故適切な維持管理が課題となっている。

### 取り組み内容・対策例

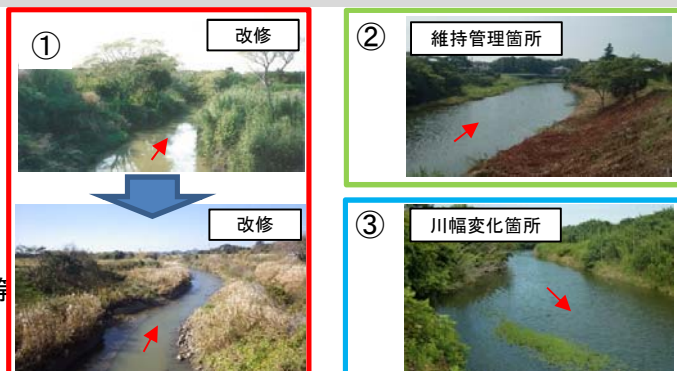
- ・淵を保全する。
- ・元の滞筋を模した河道にする。
- ・元の地形を生かした島をつくる。
- ・元の河岸をそのまま利用する。
- ・元の河床を模した掘削をする。
- ・水際線はなだらかにする。
- ・現地表土を用いた土羽とする。
- ・管理用道路に植樹し木陰を提供。
- ・川岸のメダケ林を極力残す。

#### ● 構想断面図



### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ①河積阻害となる樹木は除去したうえで、上記の取組を行い、良好な河川環境を構築している。
- ②草刈り等の維持管理を行っている箇所では親水性を保った憩いのスペースを提供している。
- ③元の滞筋を模した河道とし、川幅に変化のある箇所では河床にも変化が見られ、植生が根付く等効果を見せている。



### 備考

# 二級河川滝川における 多自然川づくりの取組事例

Keywords : 淵の保全、水際の創出、元の滯筋を模した河道

## ● Before



河川改修前（平成7年）

## ○ After



河川改修後（平成9年） ※上の写真とは異なる箇所

千葉県滝川における多自然川づくりの取組事例を紹介する。淵の保全や、水際をなだらかにすること、元の滯筋を模した河道とすること、元の河床を模した掘削をすること等を取組方針として改修を行ってきており、良好な自然環境が回復してきている。